

スポーツと文化		講義	教授 平沢 信康	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220110 12220131 13220135

### 1. 授業のねらい・概要

今日、世の中には様々なスポーツ競技種目が存在する。世界中の人々がプレーを楽しみ、また数多くの人々がスポーツを観戦している。本講義では、スポーツの歴史を先史時代や古代より現代まで、人類史的観点から多角的に考察するものである。

とくに文化史の視点から、ときには文化人類学的観点も交えながら、スポーツ史について検討する。テレビや新聞などで報じられる現代のスポーツ・ジャーナリズム情報とは異なり、文明史の視点から世界史的教養を深める講義とした。

### 2. 授業の進め方

基本的には、講義内容の概要を記したレジュメを G メールで事前配信し、その講義要旨に即して解説する。適宜 PowerPoint を活用してテーマに関係する画像をスクリーンに映して紹介しつつ、そのビジュアルな情報を以てレクチャーの発話・文字による理解を補う方法で進める。

よって講義要旨を読みつつ、スクリーンにも注視するよう促す。

新型コロナウイルスの感染リスクが急拡大するような場合は、遠隔授業とする場合がある。

### 3. 授業計画

1. 「スポーツ」とは何か? — 語義と語法	9. 近代フットボールの成立と派生形
2. スポーツの歴史 — その概観と種類 (類別)	10. 球を棒等で打つ競技の誕生と歴史
3. オリンピックの歴史と文化	11. 体操という身体運動文化の近代史
4. 祭典・祝祭とスポーツ	12. 近代球技スポーツの文化史
5. スポーツと宗教	13. 日本における近代スポーツの紹介と導入
6. スポーツと社会階級	14. 近代日本におけるスポーツの普及と発展 — 学生野球の歴史を中心に
7. 体育スポーツ施設の文化史	15. 西欧諸国におけるスポーツクラブという組織文化
8. 足で蹴る球技スポーツの歴史 — フットボールとバスケットボールを中心に	

### 4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

資料を pdf 版で事前送信するので、その講義要旨の当該ページを次回講義までに読んで予習 (30 分程度) しておくこと。

また講義終了後、講義要旨 (レジュメ) の内容を読み返し、気になる事項や人名あるいは Map をインターネットで検索して学習を深掘りし、復習 (30 分程度) しておくこと。関連情報については、受講者各自が所有するスマホで検索し、積極的に確認してもらいたい。

### 5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

毎回の講義終了時に記して提出してもらう出席票兼用の「感想メモ帳」(A4 両面) に書かれた小文に対して、誤字脱字の添削を含めたコメントを付して返却するので、次週冒頭に受け取ったら注視されたい。

優れた感想文の紹介あるいは学期末試験について特に注意を喚起すべき事項 (多かった誤答など) 等の講評を G メールで履修者全員に対して配信することでフィードバックする。

## 6. 授業における学修の到達目標

文化としてのスポーツの創造・発祥や誕生の歴史（ルーツや創始者を含む）および文化としてのスポーツの国際的な伝播について理解を深め、説明できるようになることをめざす。

歴史のみならず、世界の地理に関する認識・理解も高める。

## 7. 成績評価の方法・基準

学期末に実施する筆記試験と平常点とを総合して評価する。評点の配分割合は、期末試験（55%）、平常点（45%）とする。

平常点については、各回講義の終了時に記してもら出席票兼用「感想メモ帳」のコメント（質問を含む）の筆記内容および濃淡等で、講義に臨む関心と意欲および理解の程度を評価する。

なお、新型コロナウイルス感染のリスクが高まった場合は、各回の講義終了後にGメール送信してもら「感想文」の内容を平常点とする。その場合は学期末試験を実施せず、期末レポート提出に替えるものとする。

## 8. テキスト・参考文献

木村毅『日本スポーツ文化史』ベースボール・マガジン社、1978年

ハイナー・ギルマイスター『テニスの文化史』大修館書店、1993年

寒川恒夫編著『スポーツ文化論』杏林書院、1994年

杉本厚夫『スポーツ文化の変容：多様化と画一化の文化秩序』世界思想社、1995年

鈴木守、山本理人編著『スポーツ文化の現在（いま）』道と書院、2000年

稲垣正浩編著『スポーツ文化の「現在」を探る』叢文社、2002年

井上俊、菊幸一編著『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房、2012年

## 9. 受講上の留意事項

講義中は私語を慎み、居眠りをしないこと。

可能な限り図書館に行って、上記参考文献をはじめとするスポーツ文化（史）の文献に親しむこと。

インターネットでの検索を厭わず、億劫がらずに、こまめに調べる態度と習慣を養うこと。

各回のレジュメ全体を熟読して、そのテーマ・内容に沿った感想文を書くこと。代筆は禁止。

コピーは不可。自分の頭で考えたことを、自分らしい文章で表現すること。

## 10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

## 11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。